

埋もれた仙台の歴史

— 仙台の主要遺跡案内 —



村民により美しく保存されている根添館跡（坪沼）



八幡西遺跡（山田） 竪穴住居跡（平安時代）



遺物出土状況



文化財愛護シンボルマーク

仙台市教育委員会
昭和53年3月

例 言

- この小冊子は、仙台市教育委員会社会教育課文化財係が編集・発行するものである。(昭和53年3月)
- とりあげた遺跡は、市内251ヶ所の内、見学しやすいところ、調査されたところを基準に、61ヶ所をとりあげ、遺跡名の後ろに、18・19ページの「主要遺跡分布図」に対応する番号をつけている。(例)青葉山遺跡①
- 全遺跡の正確な範囲とリストは、社会教育課文化財係編集の「仙台の文化財分布図」(1万分の1)と同「収録物件一覧表」を参照されたい。
- 本小冊子で用いた記号は▶で遺跡の現地案内を▷で本の紹介や遺物の保管場所を示している。
- 本小冊子の作成にあたり次の機関と方々により協力を得た。

宮城県教育委員会文化財保護課・東北大学文学部考古学研究室
古窯跡研究会・森 剛男 (県文化財保護指導員)
石黒伸一郎・山上千鶴子・鈴木美津子・高平美紀・柿沼敏朗

仙台市内の遺跡の概要

指定の種類	名 称	所 在 地	所 有 者	指定年月日
国指定史跡	陸奥国分寺跡	仙台市木ノ下 ^{二丁目} _{三丁目}	仙台市ほか	大正 11. 10. 12
"	陸奥国分尼寺跡	" 白萩町	仙 台 市	昭和 23. 12. 18
"	遠見塚古墳	" 遠見塚一丁目	"	" 43. 11. 8
市指定史跡	善応寺横穴古墳群	" 燕沢字西山	善 応 寺	" 43. 2. 15

〈市登録遺跡〉(指定遺跡を含む) 昭和53年3月現在

集 落 跡	143	旧石器時代 1 縄文時代 55 弥生時代 11 古墳～平安時代 104 鎌倉・室町時代 4	計 175 ※複合遺跡がかなりあり。
古 墳	47		
窯 跡	22	(群)	
寺 院 跡	2	(国分寺・国分尼寺跡)	
城 館	27	「仙台領内古城・館」昭和49年(紫桃正隆)によれば	36
そ の 他	10		
	251		

1. 遺跡とは何か

遺跡とは、「過去に生きた人々の生活や行動の跡を残している土地」であります。「埋蔵文化財包蔵地」とも呼ばれるように、その多くは土中や水中(底)に埋もれています。

遺跡は竖穴住居跡(図2)のように、人間がある目的で意識的に大地に手を加えて作りだした「遺構」と土器や石器のように人間が意識的に自然の状態から切離した「遺物」からなっています。
遺構①土に掘りこんだもの一竖穴住居。貯蔵やゴミの捨て場所・墓として使われる穴(大きなものを「土壇」・小さなものを「ピット」と一般に呼びます。)②土や石を積みあげたもの一城や館を区画する「土塁」等があります。
遺物①人工遺物…石器や土器・金属器のように自然のものに手を加えたもの②自然遺物…食用として海からとってきた貝のように、人間の行動を反映したもの。

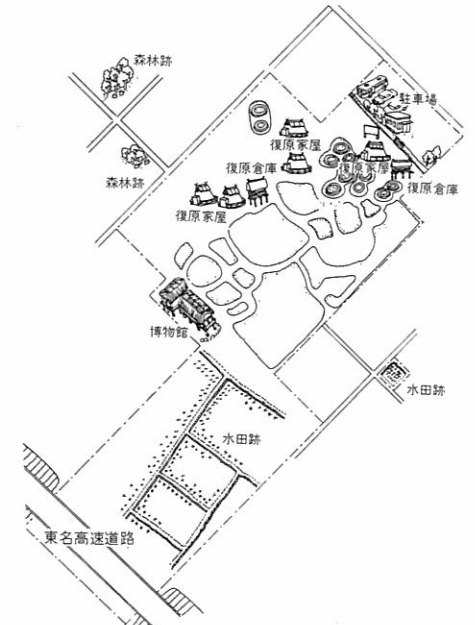


図1 登呂(静岡県)の遺跡公園
(「登呂博物館」より)

遺跡は、どのようにして発見されるか(図2)

- たとえば竖穴住居が火災や洪水などで使われなくなり埋まっていく。(川のはんらん等で)
- 柱や屋根などはくさってしまう。(すっかり住居跡をおおった上の地面を又次の時代の人々が利用することもよくあります。)
- 川のはんらんや耕作によって遺跡(住居跡等)の遺物が地表にあらわれでることにより、その下に遺跡があることが予想されます。
- 発掘調査によって、人々の生活のようすが明らかにされます。(●「おわりに」参照)

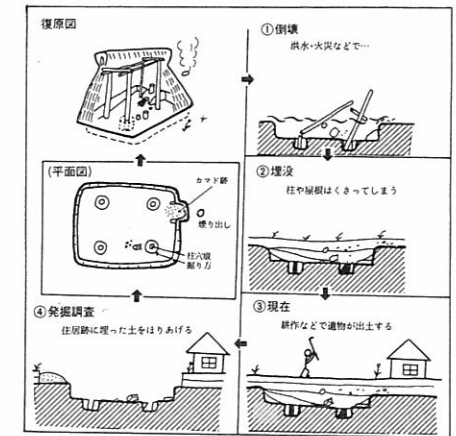


図2 竖穴住居の埋没から発掘調査まで

遺跡の種類 遺跡は ①人々が住む「集落」②人々を統治する事務を行なう役所(「官衙」)③生活に必要なものをつくる「製作所」(小田原・台原窯跡群(P12))④精神的なよりどころとしての「信仰・祭祀」遺跡⑤柵や城などの軍事的なもの(茂庭館跡(P15))⑥墳墓(4世紀から7世紀にかけてつくられた古墳が代表的なもの)等の種類があり、①の中に②～⑥が含まれる場合も多い。

2. 市内の主要遺跡

●旧石器時代（3万～1万年前）

日本に確実に人類が住み始めたのは3万年前であり、氷河時代、大陸が地続きの頃でした。人々はナウマン象、野牛、オオツノジカ等を狩り、移動して歩く生活をしており、洞窟や簡単な小屋がけの生活をしていたと思われます。土器はまだなく石器・骨角器・革製品などを使っていました。この時代には、ローム層（火山灰）が大地をおおっており、仙台市では大年寺～八木山～青葉山にかけて分布し、現在、唯一の確実な旧石器を出土する青葉山遺跡もこの中にあります。

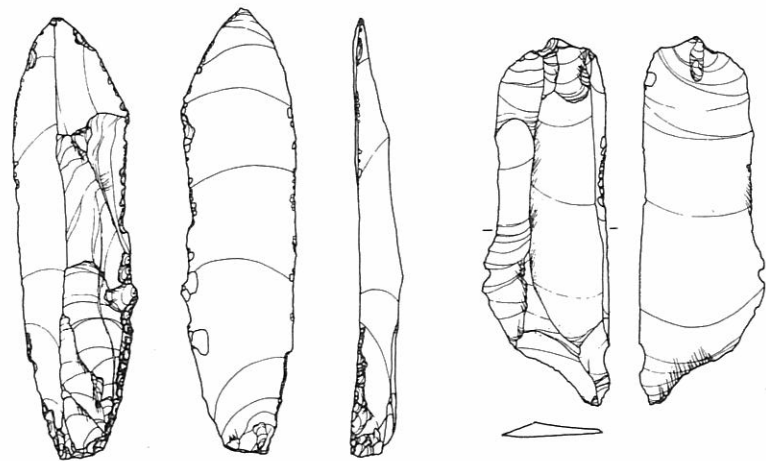
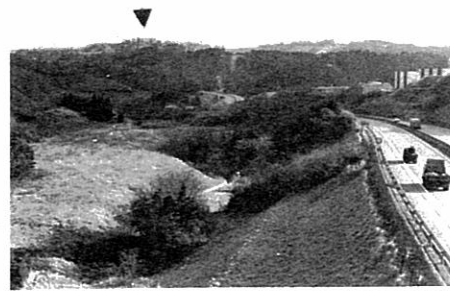
●青葉山遺跡①（荒巻字青葉）

丘陵の上の平らな地域からゆるい斜面にかけての地域が、旧石器時代人の生活の舞台となったことでしょう。

図3 旧石器時代人の生活
（鈴木遺跡より）



写真1 青葉山遺跡



▼市バス・日立ファミリースタ
前「青葉台」行終点。付近に太白山
に至る遊歩道あり。
▽遺物は東北大学考古学研究室で保管
（TEL・二二一―一八〇〇）



図4 青葉山遺跡 表土から採集された旧石器
（実測図・東北大学考古学研究室）

●縄文時代（約1万年～2300年前）

氷河がとけ、陸地は大陸から切り離され日本列島が生まれます。そして人々は、土器をつくり始め、現代とほぼ変らぬ温暖な気候の中で①狩り②魚貝をとる③植物の実や根をとる生活をしており、①弓矢でびんしょうな動物をとり、②土器で煮て食べられるようになった事は大きな進歩です。そしてこのような生活の拠点は主に小高い丘に営まれた数棟の竪穴住居のまとまりでした。宮城県には全国有数の貝塚群をはじめ、多くの遺跡があり、市内でも55ヶ所を数えます。

●三神峰遺跡②（富沢字金山）

春は花見でにぎわう三神峯公園一帯が、縄文時代前期、今から約6000年前の集落跡です。周囲に水源としての沢や、狩りの獲物の豊富な山野をひかえた小高い丘陵は、当時の人々にとって絶好の生活の場所といえましょう。昭和48年と50年の土木工事に伴う仙台市の事前の調査で、計6棟の竪穴住居跡が発見されました。同じように前期の大集落である名取市今熊野遺跡③の住居と似ているのが注目されます。出土遺物には、土器（深鉢など）があり、石器には矢じりやナイフ・きり・オノとして使われたものや、木の実をすりつぶすのに用いられた石皿とすり石などがあります。なお付近には古墳（円墳・横穴古墳）や富沢墳輪窯跡があり、「遺跡の宝庫」とさえいえる地域です。

▶市バス 西多賀行・三神峯公園下車

▷50年度緊急発掘調査現地説明会資料



図5 縄文時代の環境（安田喜憲「菅生田遺跡」）

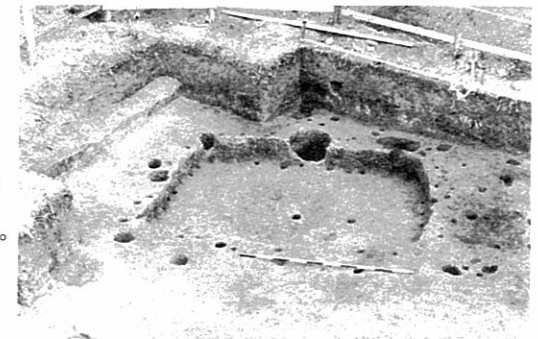


写真2 三神峰遺跡・竪穴住居跡



写真3 三神峰遺跡出土・縄文土器



▲写真4 三神峰遺跡全景

●上野遺跡④（富田字上野）

縄文時代中期（約4000年前）の代表的な遺跡で、周囲の水田より4～8m高い丘の上に約3000㎡に及ぶ広い範囲に土器・石器が散布しています。昭和51年に第1回文化財講座の一環として行われた発掘調査で、竪穴住居跡や土壇（人為的な掘りこみ）が何度も重なっていることがわかり、更に奈良・平安時代の土器も見つかっていることから、縄文時代以来、非常によく利用された地域といえます。なお、同じような立地でよく保存されている遺跡として山田上ノ台遺跡⑥（山田）があります。

▶宮城バス 富田行にのり富田下車

▷遺物の一部は視聴覚教材センターに展示

（柏木三丁目1～3）TEL74-0339

●六反田遺跡⑤（大野田字六反田）

昭和51～53年にわたる開発に伴う事前調査で古墳・奈良・平安時代の遺跡の下、地表下1.5～2mから縄文時代後期初頭（約3500年前）の遺跡が発見されました。石組などの遺構や縄文土器・大形石斧・石鏃などの石器が出土しています。従来、縄文時代人は、丘陵を中心に生活していたという通説を考えると、このような、荒川、名取川周辺の低地で縄文人が生活していたことは、注目されます。

▶市バス長町六丁目下車、大野田小学校の方へ徒歩15分。

▷現地説明会資料No.1・2・3

●その他

縄文時代の終り頃（晩期）の遺跡としては、榴ヶ岡遺跡⑦門野山岡遺跡等があります。



写真5 調査された上野遺跡

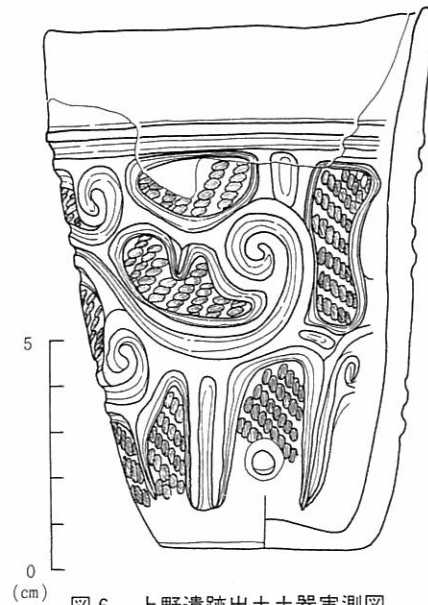


図6 上野遺跡出土土器実測図



写真6 六反田遺跡土器出土状況

●弥生時代（紀元前300年～後300年）

今から約2300年前、人々は朝鮮半島からの影響のもとに、稲作を始め、鉄や銅の道具や武器を使い、機織りの技術も生まれます。気候は、温暖で、人々は周囲に耕地にしやすい低湿地をもつわずかに小高い地域に、数棟の竪穴住居を一まとまりとして住んでいました。村落が広がるにつれて争いも激化し、やがてしだいに統一のきざしがみえてきます。有名な「耶馬台国」はこのころにあったと考えられています。

東北地方で稲作の始まったのは、弥生時代の中頃（約2000年前）のことで、西日本の弥生文化にくらべ縄文文化の強い影響が弥生土器の縄文などにうかがえますが、しだいに南小泉遺跡のような大集落が生まれてきます。

●藤田新田遺跡⑧（藤田字新田）

仙台平野の海岸部一帯には、各所にわずかに小高い地域があり、その一つ藤田新田地区、通称「ウルコ谷」と呼ばれる水田地域では、弥生土器や石庖丁（稲の穂を刈るための道具）が出土しています。

▶市バス 藤田行（駅前エンドー向かい）にのり藤田北裏下車。

●西台畑遺跡⑨（郡山二丁目）

長町駅の東側、伊勢レンガ工場内で粘土をとるため深掘りしたときに、2～3m下から弥生土器が大量に、発見されています。

▶市バス 中田方面行にのり長町駅下車、郡山方面への地下道をぬけた右手一帯。

●安久東遺跡⑫（中田町安久東）

安久東遺跡は、弥生・古墳・奈良・平安・鎌倉室町時代にわたる大集落跡であることが、近年の開発に伴う調査でわかってきました。弥生土器は、第4層から出土しており、中には写真9のようにまとまって出土している場所もあります。

▶市バス 高館行にのり中田神社前下車。

▷「安久東遺跡現地説明会資料（県・市）」



写真7 藤田新田遺跡



写真8 藤田新田遺跡出土弥生土器



写真9 安久東遺跡・弥生土器出土状況

●南小泉地区の歴史（遠見塚・南小泉）

仙台市街の東南、現在は仙台バイパスに分断されている遠見塚古墳から霞ノ目飛行場を中心とする広い地域が主に弥生・古墳時代にかけての東北でも有数の大集落跡です。この地域は「霞ノ目低地」と呼ばれ名取川・広瀬川のはんらんによってできたところです。

〈弥生時代〉（約2000年前～1800年前）

比較的小高い住みやすい地域と周辺の広い湿地は、稲作を始めた弥生時代の集落に絶好の場所で、それを裏づけるように大量の弥生土器や石器が、遺跡一帯に分布しています。

土器には壺・カメ・鉢があり、モミ痕のついたものもみられます。又、二つの土器の口を合せた土器が特定の場所から出土することから墓域があったと思われます。

〈古墳時代〉（約1500年前）

霞ノ目飛行場拡張の際（昭和14年～16年）100軒もの竪穴住居跡が確認され、出土した土器などから5世紀を中心とした大集落と思われる。遺跡のほぼ中央部にある遠見塚古墳（全長110m）は当時の仙台平野の支配者の墓であり、この集落を中心に住んでいた人々がつくったものであり、弥生時代以来の米作りのもたらした生産力の結果といえましょう。

〈奈良・平安時代以降〉（約1200年前～）

南小泉の北側一帯には、奈良・平安時代の土地区画である「条里制」の区画や「一の坪」「二の坪」といった地名が残っており、人々の集落も周辺にあったことでしょう。

鎌倉・室町時代には、遺跡の東南隅の一角に生活や農業のセンターである館跡（沖野館跡）が残っています。▷「南小泉遺跡」昭和53年仙台市教育委員会。



図7 南小泉遺跡

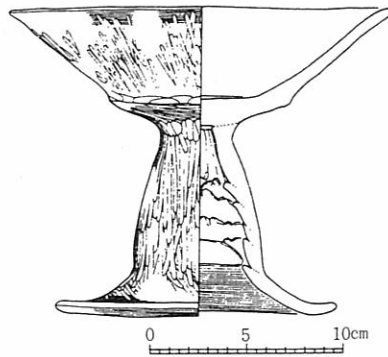
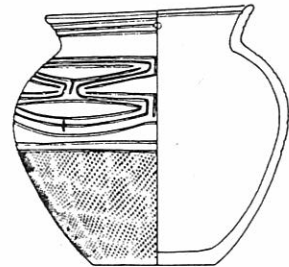


図8 南小泉遺跡出土（上）弥生土器 壺
（下）土師器 高杯

●古墳時代（4世紀～7世紀）

人々が支配者のために、壮大な墓を築いたことにより特徴づけられる時代です。古墳の数は現存するだけで全国で10万にのぼります。人々は弥生時代以来、耕地に適した低湿地を周辺に持つ、わずかに小高い地域に竪穴住居をたて住んでいますが、やがて山あいの谷地にも進出していきます。人々が用いた土器には、弥生土器の伝統をひいた土師器と5世紀に朝鮮から伝わった技術で、窯で焼く須恵器があり、形は壺・カメ・坏・高坏等多種にわたります。

東北でも、会津の大塚山古墳（4世紀後半、東北最古）名取市雷神山古墳（4世紀後半～5世紀、全長168m、東北最大）など巨大な古墳（前方後円墳）がつくられますが、しだいに古墳は小さくなり、数が増える傾向があります。仙台市内では現在までに47基の古墳が知られています。

〈4世紀〉

●安久東遺跡の方形周溝墓⑫

昭和47・52年の開発に伴う調査で方形周溝墓（方形に溝をめぐらし内部に遺体を葬ったもの）と同時代の集落が発見されています。方形周溝墓は東西14m、南北17mの溝がめぐるもので溝から底部に穴のあけた土師器の壺（写真10）が出土しています。集落は、周溝墓から約100mの地点で一辺3.5～5mの竪穴住居跡3棟が発見されています。

▷「宮城県文化財発掘調査概報」53年度

「安久東遺跡発掘調査概報」（仙台市教育委員会）

▷遺物は東北歴史資料館 仙台市視聴覚教材センター

〈5世紀〉

●遠見塚古墳⑪（遠見塚一丁目）

前述した南小泉遺跡の中心に位置する全長約110mの前方後円墳で、国の史跡になっています。昭和50年度からの環境整備に伴う発掘調査で①昭和22年、アメリカ軍に霞ノ目飛行場拡張の際削られた2基の粘土槨（粘土で棺をおおった埋葬施設）の残存を確認し、②古墳の周囲に図10のような堀（幅20～40m、深さ2m前後）がめぐっていることが判明しました。

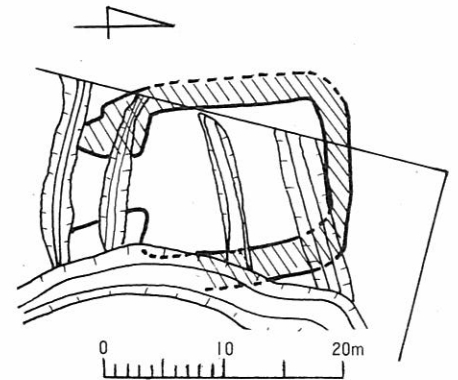


図9 安久東遺跡方形周溝墓

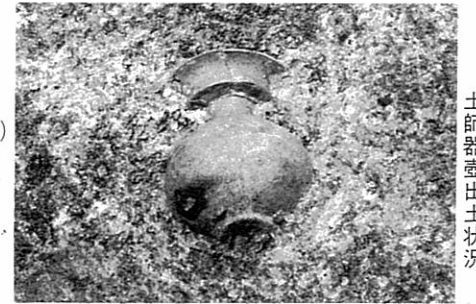


写真10 安久東遺跡方形周溝墓 土師器壺出土状況

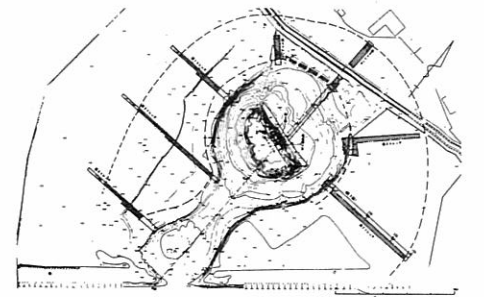


図10 遠見塚古墳と周堀（堀）の復原図

●兜塚古墳 ⑬ (根岸町)

旧宮城農業高校グラウンドにあり、円墳(直径50m、高さ5.5m)とみられていましたが、昭和52年の調査で前方後円墳であることがわかりました。墳丘にふいた石や円筒ハニワの破片が見つっています。

▶市バス、羽黒台又は門前徑由西ノ平に乗り、兜塚橋下車。



写真11 兜塚古墳遠景(東上空から)

●鴻ノ巣遺跡 ⑮ (岩切字鴻ノ巣)

中世の遺跡と共に、古墳時代の中頃の竪穴住居跡2棟が新幹線工事に伴う事前調査で見られています。

▷「東北新幹線関係遺跡調査報告書I」
昭和49年 宮城県教育委員会



写真12 鴻ノ巣遺跡第2号住居跡カマド

●大蓮寺窯跡 ⑭ (原町小田原案内)

台の原・小田原丘陵の東端にあり、昭和50年古窯跡研究会の調査で古墳時代中頃の須恵器を焼く窯がみつき、今まで移入品と考えられてきた同時代の製品を考える上で注目されます。

▶市バス、東仙台営業所行に乗り東仙台下車、大蓮寺の裏山一帯。

▷「陸奥国官窯跡群II」1976 古窯跡研究会
<6世紀>



写真13 大蓮寺窯跡全景

●裏町古墳 ⑯ (富沢)

宅造に伴う事前の調査で全長40m、周囲に堀、すそに石列をふき、墳丘に円筒ハニワを並べた前方後円墳であることがわかりました。石室からは珠文鏡が発見されています。なお、三神峯公園にあり、昭和49年に調査された富



写真14 調査中の裏町古墳

沢窯跡で焼かれた円筒ハニワは、この裏町古墳にも使われたと考えられています。
▷「裏町古墳発掘調査報告書」昭和49年仙台市教育委員会・「富沢窯跡」古窯跡研究会

●大野田古墳群⑱ (大野田)

古墳の空白地帯とされていた大野田地区では、昭和51年度の開発に伴う事前調査で、おそらく江戸時代以降の開田により削平、整形された直径30m前後の古墳群が発見されました。いずれもハニワを持つことが特徴です。
<7世紀>

●法領塚古墳 ⑲ (一本杉)

聖ウルスラ学園内にある直径32mの円墳で、何人もの埋葬が続いて可能な横穴式石室を持ち、現在でもその1~2mの巨石を使った石室を見ることができます。

▶市バス、南小泉・霞ノ目行に乗り一本杉で下車、ウルスラ学園の許可要。

▷「法領塚古墳調査報告書」仙台市教育委員会

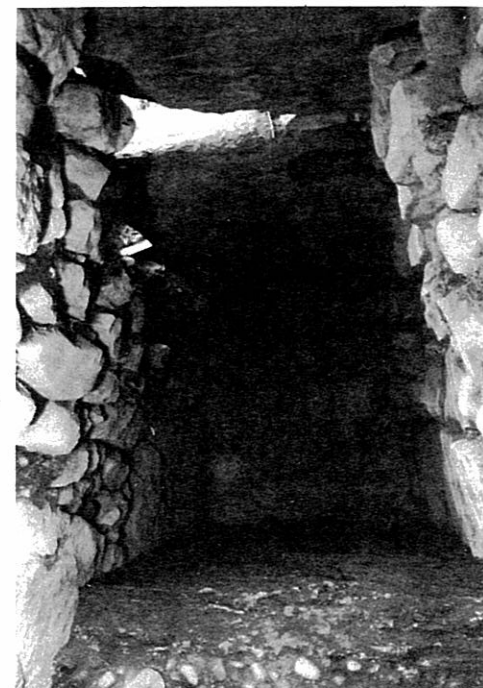


写真15 法領塚古墳・横穴式石室内部

●安久諏訪古墳 ⑳ (中田町安久)

昭和50年、区画整理工事に伴う事前の調査で見られ、その後安久東公園予定地に移築復原された。全長6.4mの横穴式石室をもち玄門の左右に美しい石積をもつのが特徴です。

●善応寺横穴古墳群 ㉑ (燕沢字西山)

市内にある8ヶ所の横穴古墳群の1つで仙台市指定。小田原・台の原丘陵の東縁、善応寺の裏山に推定100基をこす横穴が崖に掘りぬかれている。昭和42年の調査で平安時代まで使われたことがわかっています。

▶市バス、東仙台行にのり東仙台営業所前で下車。

▷「善応寺横穴群調査報告書」仙台市教育委員会

●愛宕山横穴古墳群 ㉒ (越路・向山四丁目)

装飾横穴古墳1基を含む数10基の横穴群で広瀬川河畔の虚空蔵堂こくうざうどうの下が保存が良好である。装飾古墳は奥壁に朱で○や⊕をかいたもので、横穴群の中で独自の地位を占めた人が葬られたのではないだろうか。

▷「愛宕山横穴群発掘調査報告書」仙台市教育委員会・愛宕山装飾横穴現地説明会資料



写真16 安久諏訪古墳



図11 愛宕山装飾古墳(奥壁)

●栗遺跡 (中田町字栗)

古墳時代の後半から奈良時代にかけての集落で数少ない調査された遺跡です。9棟の竪穴住居跡と墓とみられるいくつかの土壇(人為的な掘りこみ)が発見されています。

●市内の古墳の中で以上の他に保存の良いものとして、城丸古墳 ⑤(四郎丸字大宮・円墳・径23m)、弁天岡古墳 ⑥(四郎丸字新明・円墳・径7m)、千人塚古墳 ⑦(岩切字山崎西・径16m)等があります。

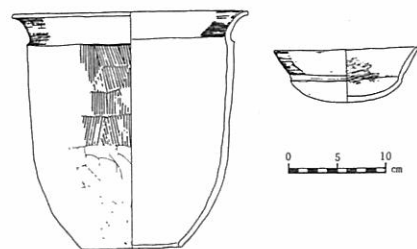


図12 栗遺跡出土遺物実測図
「発掘調査略報」(東北学院大学栗遺跡調査団他)

●奈良時代(8世紀)

7世紀中ば頃から政府は、全国を直接的に支配し、中国(唐)からひきついだ律令法を社会のワク組とする体制をつくり始め、東北に対しては、多賀城④を拠点として積極的支配政策をうちだし各地に城柵がつくれ、又精神的なよりどころとして陸奥国分寺がつけられました。

これに対して政府に従わない人々(エミシ)は度々反乱をおこし抵抗しますがやがて、移民を大量に導入しての東北支配は現在の宮城県北部まで及んでいきます。

●国分寺跡 ⑮(木ノ下)と国分尼寺跡 ⑯(白萩町)▷「陸奥国分寺跡」(河北文化事業団)昭和36年
▷出土遺物の一部は、付近の宝物館にあり

政府は8世紀中頃、東大寺を総国分寺として国ごとに国分寺(僧寺と尼寺)をおきました。陸奥国分寺跡は昭和30年から5年の調査で、800尺(約242m)四方の中に南大門・中門・金堂(本尊を置くところ)・講堂(儀式・勉強の場)・僧房(僧の住居)・七重の塔を配する全国でも有数の規模をもつことがわかりました。これらの建物は、台の原・小田原丘陵で焼かれた瓦でふいた、朱ぬりの建物で当時の竪穴住居跡に住んでいた庶民の目のみはらせたことでしょう。寺はその後、律令制の衰えと共に、国の保護を失いすたれていったと思われます。又国分尼寺跡は現在残っているのは推定金堂跡(国分寺の東方590m)だけで実際の寺域はもっと広がったと思われます。



図13 陸奥国分寺復原予想図



写真17 環境整備された陸奥国分尼寺跡

●郡山遺跡 ⑰(郡山地区一帯)

名取川のはんらんでできた微高地で、諏訪神社の裏手一帯に瓦が、その周辺により広い一帯に土師器、須恵器が分布しています。郡山という地名から見ても、郡の役所か寺を含めて、平安時代にいたる大集落が形成されたところでしょう。▶「西台畑遺跡」P6参照。



写真18 郡山遺跡出土軒丸瓦

●台の原・小田原窯跡群 ⑭・⑲・⑳・㉑

仙台市の東北部を東西にのびる丘陵一帯は、水・粘土・燃料に恵まれた大窯業地帯(与兵衛窯跡⑳等)で、奈良・平安時代には、国分寺・尼寺・多賀城に運ばれています。安養寺下窯跡㉑はその中の1つで3基調査され(昭和47年)、全長約8mの瓦などをやいた窯です。



写真19 安養寺下窯跡

▶市バス、鶴ヶ谷方面行にのり安養寺三丁目下車。

●宗禅寺横穴古墳群 ㉒(根岸町)

市の計画道路に伴い事前に14基の横穴古墳が調査されました。入口をふさいだ石が残る横穴では人骨や副葬品などの須恵器・土師器が見つかっています。又遺体を安置する部屋(玄室)には、一段高い棺座をもつものがあります。特に玄室の内面に軒まわりの線を模している家型のものは、興味深いものです。

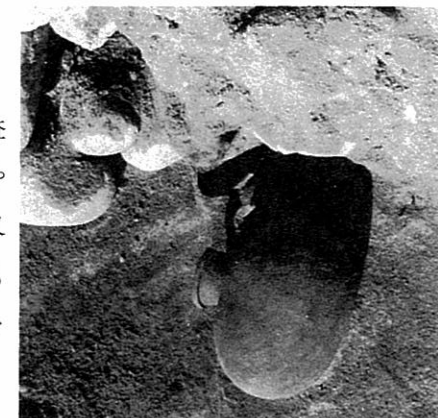


写真20 宗禅寺横穴古墳土器出土状況

▷「宗禅寺横穴群発掘調査報告書」仙台市教育委員会



写真21 宗禅寺横穴古墳全景

●平安時代（8世紀末～12世紀後半）

平安時代は、律令体制がしだいにくずれていく中で、各地域の領主が武力を背景に成長していく時代で、その下の農民も又、しだいに成長していることが、考古学的にも、鉄製農具・糸をつむぐ紡錘車が竪穴住居跡から出土している事などから裏づけられています。

●八幡西遺跡 ③①（山田字八幡西）

名取川の河岸段丘に営まれた集落で、昭和52年の畑改良工事の際、竪穴住居跡一棟が調査されました。住居の床から出土した鉄製の鋤と、須恵器の大ガメ（貯蔵用）、土師器のカメ（煮炊用）。土師器と須恵器の環（食器）は復原され（写真22）、当時の生活を知る好資料になっています。なお、住居跡は地主沼田氏の好意により再び埋めもどされています。

▷遺物は仙台市視聴覚教材センターにあり。

●安久・安久東遺跡 ①②

先に紹介した安久地区一帯は、平安時代においても集落を形成しており、先の調査で、計14棟の竪穴住居跡が発見されています。住居は、河原石をしんとしたカマドと貯蔵穴をもち、平面形が隅の丸い方形で一辺が4～5mあります。写真24の住居跡（安久遺跡）は一辺6m近くあります。住居跡からは、土器の他に土錘（綱のおもり）・鉄製の紡錘車や鋤さき・矢じり、刺突具などが出土し、鉄製農具の普及を物語っています。又、ほぼ同時代の小型石室墓（写真25）や埋葬用とみられる合口カメの出土（写真26）や、馬の首を埋めたと思われる土塚は、当時の墓制や信仰を知る上で注目されます。

●市内にはこの他、六反田遺跡（大野田）をはじめとして大規模な集落が多数あり、窯跡としては、五本松窯跡①②等があります。▷「五本松窯跡」「六反田遺跡発掘調査（第1次）のあらまし」

仙台市教育委員会



写真22 復原された八幡西遺跡住居跡出土土器（1・2は須恵器、他は土師器）



写真23 同上 鉄製鋤出土状況

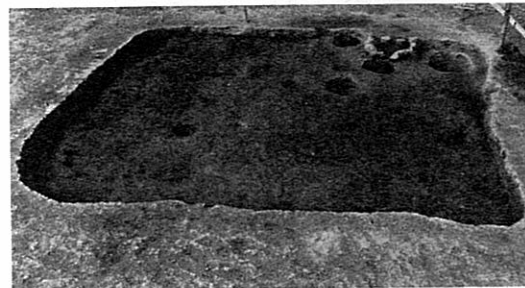


写真24 安久遺跡 第1号住居跡



写真25 安久東遺跡（右）小型石室墓（左）合口カメ棺出土状況

●鎌倉・室町時代（12世紀後半～16世紀後半）＝中世

鎌倉・室町時代は、前代を通じて成長してきた各地の領主が、戦国争乱の中でしだいに、自らの領地を直接に支配していき、農民も又、そのような領主の住む館を中心に年貢をおさめ、生活しており、ある者はしだいに有力な農民に成長してゆきます。



写真27 岩切城跡

●岩切の中世

岩切地区は、中世・留守氏の居城である岩切城を中心として、東光寺城②②、化粧坂城（利府町）③③、利府城④④などの城館跡、七北田川流域の今市・鴻ノ巣などの集落跡、そして東光寺の磨崖仏と板碑（中世の供養塔）など中世のおもかげを良好に残す全国でも有数の遺跡群であり、しかも古文書に、七北田川流域に商業を営んだ農民が登場することからみても中世の一大中心地と言えましょう。

●岩切城跡〈鴻ノ館・高森城〉（岩切字入山）

中世、留守氏の居城といわれ、周囲を深い谷と空堀により画され、三段の平場をもつ山城で昭和10年の調査で掘立柱の建物があったことがわかっています。

●若宮前⑤⑤・鴻ノ巣⑥⑥・今市⑦⑦遺跡

若宮前遺跡では、現八坂神社移築に伴う調査で掘立柱の建物と中世陶器（愛知県産の渥美産のものを含む）と北宋銭が、又前述した鴻ノ巣遺跡では、曲物を井戸わくとした井戸や土壇などの遺構と、中世陶器（壺・カメ）、中国から輸入された白磁片や青磁片が出土しており、中世の集落のようすがしだいにわかりかけてきています。

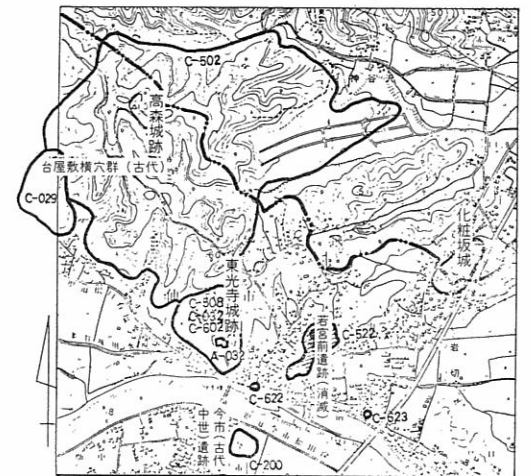


図14 岩切地区の遺跡

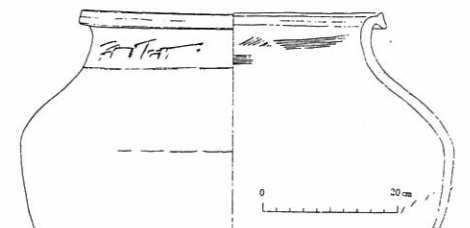


図15 鴻ノ巣遺跡出土中世陶器「県報告35集より」

写真28 東光寺境内・嘉暦二年（一三二七）の板碑



●茂庭館跡群

茂庭地区には本館(けんとう城?)④⑩・大館④③を始めとして、東館③⑨・峯館④①・西館④②・小館④④などの館跡が密集し、県内でも中世山城の様相を探ることのできる有数な地域で、本館跡は、東西200m、南北80mを土塁、空堀や自然の崖で画する中世山城の代表的なものです。

▶市バス、茂庭方面行き生支所前下車。

●その他の城館

山城として伊達氏以前に勢力のあった粟野氏の居城と伝える茂ヶ崎城跡⑤⑩ 又、平城として同じく粟野氏の拠点と伝える富沢館跡④⑨・沖野館跡④⑧・北目城跡④⑦があり④⑨・④⑧は土塁・空堀がよく保存されています。国分氏の居城とされるものには、南ノ目館跡⑤⑨(原町南目)や小鶴城跡④⑥があり④⑥は土塁・空堀が見事に残っています。その他、保存がすばらしいものとして坪沼の小盆地にある根添館跡④⑤「裏表紙参照」があります。

▶生支小学校前(バス)下車。

●中世の信仰を示すものとして愛宕山より出土した経筒(極楽住生を願い経を地下に埋めたもの一経塚)があります。



写真29・30 (上)茂庭本館・東館跡(下)西館跡を大館方面より望む



写真31 茂ヶ崎城跡



写真32 富沢館跡



写真34 愛宕山出土経筒(3個のうちの1個)

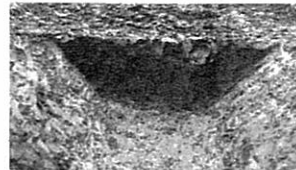


写真35・36 安久東遺跡 (上)堀の断面と漆器 (下)青磁片(北宋)



▶写真33 小鶴城跡(北側土塁)

●中世の集落としては、安久東遺跡で中世陶器や漆器の出土する堀(写真35)(幅3~6m、深さ1~2m)が発見されており、堆積土の上層から美濃の陶器片も出土している他、同遺跡からは青磁(北宋)も出土しています。この他、中世陶器は、地蔵浦遺跡④④(六丁目)や岡崎田遺跡⑤②(荒井)から出土しておりますが中世集落の解明はこれからの課題であります。

■江戸時代(17世紀~19世紀後半)=近世

江戸時代は江戸幕府とその支配下でほぼ独立の領国をもつ「藩」による体制の時代です。

仙台藩は17世紀初め伊達政宗により開かれ、城下町の基礎がすえられ、周辺の荒野に対しても積極的な開発が行なわれました。



写真37 仙台城遠景

●仙台城(青葉城)⑥⑩(青葉山)

仙台城はいうまでもなく、仙台藩政の中核であり、天然の要害をたくみに利用した日本有数の規模をもつ(東西約700m・南北約1000m)城であります。昭和52年東北大敷地内の土木工事で、第二師団司令部造営などの破壊をまぬがれて、二の丸に関連すると思われる石組や伊万里焼(磁器)が見つかったことは注目されます。

●伊達政宗の墓室の発掘調査 ⑥⑩(昭和49年)

伊達政宗(1567~1636)の墓所である瑞鳳殿の再建に伴う発掘調査で地表下1.5mの石室から伊達政宗の遺骨と甲冑・糸巻太刀・文箱・硯箱・キセル・印籠や西欧風のブローチなどの副葬品が発見されています。

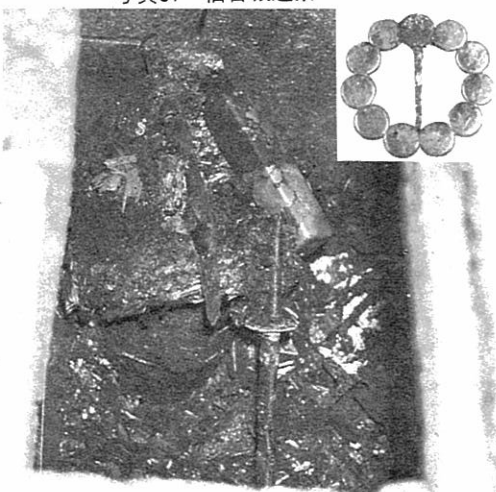


写真38 墓室の内部と出土した西欧風のブローチ

●和田屋敷跡 ⑥⑩(中野字和田新田)

七北田川北岸にあり、伊達家臣和田氏の屋敷と伝えられます。新田開発の拠点です。

●貞山堀⑥⑩ 伊達政宗より明治初年にかけてつ

くられた一大運河。仙台藩の物資を城下に輸送することを目的としていました。 ●この他、若林城跡⑥⑩(南小泉)は、伊達政宗の晩年の居城として知られています。(現宮城刑務所)



写真39 貞山堀

3. 文化財の保護

●文化遺産としての遺跡

人類が200万年余り、生きぬいてこられたのは、先人の「くふう」があり、それが受けつがれてきたからに他なりません。このような「くふう」とその結果、生みだされたものを「文化遺産」と呼び、遺跡は「大地に刻みこまれた文化遺産」ということができます。

●文化遺産の必要性

①過去の人々とのつながり

発掘調査の結果、眼前にあらわれた過去の人々の生活の跡が与える感動は、自然にひたった時の一体感と同様に、時間をこえた人々との心のつながりといえるのではないのでしょうか。

②先人のくふうに学ぶ

文化遺産が「先人のくふう」だとすれば、そのくふうに学ぶことが、これからの私たちの生き方を考える上で役に立つことはいまでもありません。そして一見、余りにも遠い数千年前の縄文人の生活も、コンクリートだらけの現代文明のゆきづまりを打開するために意外なヒントを与えるかも知れません。歴史は常に新しい意味や価値をもっているのです。

③遺跡のもつ独自の価値

遺跡は又、文字のない時代、文字を知らない人々、記録を支配者にうばわれた人々も残すことができます。これはくさるものは残らないという限界をもちながらも、遺跡が他の文化遺産に比べて独自の価値をもつ点であります。

●文化財行政—このような価値をもつ文化遺産としての遺跡の保護と活用は、文化財保護法に基づく国や地方公共団体の任務であります。所有者や市民の協力によってなされるものであります。

このため遺跡の現状をかえる時は、市教育委員会に連絡し、県教育委員会を通して文化庁の指示をうけることになっています。

●おわりに—発掘調査は今までみたように、素晴らしい成果をあげつつあります。しかし、反面、発掘後消滅した遺跡の多いことに注意してください。これからは自然環境と一体となった遺跡が市民に保護活用されるための、慎重な発掘調査が望まれます。



写真40 六反田遺跡(大野田)の縄文土器出土のようす

(地下 1.5m)



写真41 環境整備された陸奥国分寺跡

略年表

時代	紀元	歴史事項
旧石器		●青葉山遺跡
縄文	早期 前期	●三神峰遺跡 土器使用開始 狩猟採集の生活 集落
	中期 後期	
	晩期	●上野遺跡 ●六反田遺跡 ●上ノ台遺跡
弥生	中期	●南小泉遺跡(～古墳時代) ●西台畑遺跡 稲作の開始 ●藤田新田遺跡 金属器使用の開始 ●安久東遺跡(～鎌倉室町時代) 登呂遺跡
	後期	登呂遺跡
古墳	前期	300 (農業の普及、発達)
	中期	400 ●遠見塚古墳 応神、仁徳天皇陵 ●兜塚古墳
	大和	538 ●鴻ノ巣遺跡 大蓮寺窯跡 裏町古墳 仏教伝来 ●大野田古墳群
	飛鳥	593 聖徳太子摂政となる 法隆寺 ●法領塚古墳
	後期	645 大化の改新 ●安久諏訪古墳 ●善応寺横穴古墳群 高松塚古墳 ◀栗遺跡▶
奈良	710	平安遷都
	724	多賀城設置 ●宗禅寺横穴古墳群
	741	国分寺、国分尼寺造営の詔 陸奥国分寺、国分尼寺造営
平安	780	伊治公皆麻呂の反乱、多賀城陥落
	794	平安遷都
	797	坂上田村麻呂、征夷大將軍となる
	802	鎮守府を多賀城から胆沢城へ移す ●八幡西遺跡 ◀六反田遺跡▶
	1051	前九年の役 (莊園乱立、武士団成立) ◀安久・安久東遺跡▶
	1083	後三年の役
	1124	平泉藤原氏、中尊寺金色堂建立 諸国に
1189	源頼朝、藤原氏を伐つ 守護,地頭	
鎌倉	1192	源頼朝、征夷大將軍となる
	1281	元寇(弘安の役) ●岩切嘉歴二年の板碑切庭切地館城跡
	1333	北畠顕家、多賀国府に入る
南北朝	1334	建武新政
	1338	足利尊氏 征夷大將軍となる
	1350	岩切城合戦
	1392	南北朝合一
	1467	応仁の乱 { 地方分権の進行 禅宗文化の盛行

室町	1536	伊達植宗、鷹芥集をつくる
	1548	伊達晴宗、米沢城に移る
	1573	室町幕府滅ぶ
安土	1590	豊臣秀吉、全国を平定
桃山	1600	仙台城築城開始
江戸	1603	徳川家康、幕府をひらく

＜参考文献＞

1. 「仙台市史」 仙台市 昭24
2. 「仙台市の文化財正統」 仙台市教育委員会 昭43
3. 「目で見る仙台の歴史」 宝文堂 昭34
4. 「仙台領内・古城館」(紫桃正隆) 宝文堂 昭49
5. 「宮城県史1～31」 宮城県 昭32～42
6. 「宮城県の歴史」(高橋富雄) 山川出版社 昭44
7. 「宮城の歴史散歩」(新版) 山川出版社 昭53
8. 「宮城県の文化財」 宮城県 昭46
9. 「東北の歴史(上)(中)」(豊田武編) 吉川弘文館 昭42
10. 「古代の日本 東北」(伊東信雄ほか編) 昭45
角川書店

(考古学)

11. 「考古学セミナー」 山川出版社 昭52
12. 「考古学入門」(森浩一) 保育社 昭51

(少年少女用)

13. 「かもしか文庫8 大地に埋もれた歴史」
(甘粕健ほか) 新日本出版社
14. 「縄文人の知恵にいどむ」(楠本政助) 昭51
築摩書房

(文化財の保護)

15. 「宮城県文化財保護の手引」第二集 昭52
宮城県教育委員会
16. 「精説文化財保護法」(椎名慎太郎) 昭52
新日本法規
17. 「埋蔵文化財のはなし」(甘粕健) 三省堂 昭52

●発掘調査報告書の買えるところ

- ▷ 宮城県教育委員会文化財保護課
TEL (63) 2111 内 882
- ▷ 仙台市教育委員会文化財係
TEL (61) 1111 内5244
- ▷ (株)東北プリント TEL (25) 6466
仙台市立町24番24号

- × 旧石器時代
- 縄文時代
- 弥生時代
- △ 古墳時代

- ▲ 奈良時代
- 平安時代
- 鎌倉・室町時代
- ◎ 江戸時代

番号	名 称	ページ
1	青葉山遺跡	3
2	三神峯遺跡	4
3	今熊野遺跡(名取市)	4
4	上野遺跡	5
5	六反田遺跡	5・13
6	上ノ台遺跡	5
7	榴ヶ岡遺跡	5
8	藤田新田遺跡	6
9	西台畑遺跡	6
10	南小泉遺跡	7
11	遠見塚古墳	8
12	安久東遺跡	6・8 15
13	兜塚古墳	9
14	大蓮寺窯跡	9
15	鴻ノ巣遺跡(古墳時代)	9
16	裏町古墳	9
17	富沢植輪窯跡と古墳	9
18	大野田古墳群	10
19	法領塚古墳	10
20	安久諏訪古墳	10
21	善応寺横穴古墳群	10
22	愛宕山横穴古墳群	10
23	栗遺跡	11
24	多賀城跡(多賀城市)	11
25	陸奥国分寺跡	11
26	陸奥国分尼寺跡	11
27	郡山遺跡	12
28	宗禅寺横穴古墳群	12
29	安養寺下窯跡	12
30	八幡西遺跡	13
31	岩切城跡	14
32	東光寺城跡	14
33	化粧坂城跡(利府町)	14
34	利府城跡(利府町)	14
35	若宮前遺跡	14

番号	名 称	ページ
36	鴻ノ巣遺跡(中世)	14
37	今市遺跡	14
38	東光寺境内板碑群	14
39	茂庭東館跡	15
40	〃本館跡	15
41	〃峯館跡	15
42	〃西館跡	15
43	〃大館跡	15
44	〃小館跡	15
45	根添館跡	15
46	小鶴城跡	15
47	北目城跡	15
48	沖野館跡	15
49	富沢館跡	15
50	茂ヶ崎城跡	15
51	愛宕山経塚(筒)	15
52	岡崎囲遺跡	16
53	(柳生板碑群)	/
54	地藏浦遺跡	16
55	(諏訪神社境内板碑)	/
56	(東北大植物園内板碑)	/
57	(仙台大神宮内板碑)	/
58	(文永十年の板碑)	/
59	南ノ目館跡	15
60	仙台城跡	16
61	瑞鳳殿跡	16
62	和田屋敷跡	16
63	貞山堀	16
64	蒙古の碑(板碑)	/
65	城丸古墳	11
66	弁天囲古墳	11
67	千人塚古墳	11
68	若林城跡	16
69	燕沢遺跡	/
70	与兵沼窯跡	12
71	五本松窯跡	11

